

静岡
SHIZUOKA

大成功で終わった ユニバーサル技能五輪国際大会

世界55の国・地域から集まった代表選手1,173人がものづくり・サービスの“技の世界”を目指した「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」が開催された。同大会は、世界各国の22歳以下の若者が出場する「第39回技能五輪国際大会」(07年11月15～18日 沼津市門池地区)と障害がある選手による「第7回国際アビリンピック」(11月15～17日 ツインメッセ静岡)を初めて同時開催するもので、県出身者も含め20人の静岡県選手が競技に臨んだ。

結果、日本は技能五輪国際大会において、16種目で金メダルを獲得し、前回の05年ヘルシンキ大会に引き続いて金メダル数で首位に立ち、“ものづくり日本”の完全復活を内外に十分アピールした。また、国際アビリンピックでは金メダル12、銀メダル17、銅メダル15と他の国・地域を圧倒する成績を示した。

一方、今大会は“地域とのつながり”に力が注がれた大会でもあった。技能五輪国際大会では、39回の歴史の中でも初めて選手が一同に宿泊する選手村(御殿場市)が設置された。さらに、会場周辺の「おもてなし広場」(門池公園、キラメッセぬまづ)や「サテライト会場」(沼津



おもてなし広場(閉会式)での交流

港)では様々なイベントが執り行われ、期間中の門池会場来場者数218,600人(静岡県調べ)は予想を上回る好結果となった。

また、競技前後に催された、静岡市内の小中学生が1校1国形式でもてなした「静岡フレンドシッププログラム」、沼津市内の小中学生が各国選手を応援した「1校1国サポート事業」や御殿場市内小中学生が選手に手作りの絵やまが玉などを贈った「ウェルカムフェスティバル in 選手村」は、地方大会ならではの“おもてなし”となった。

ユニバーサル技能五輪国際大会全体では、おもてなし広場を含め31万人以上もの来場者があり期待を上回る大きな成果を生み出した。今大会が、成功裏に終わることができたのは、ホスピタリティの気持ちを前面に出し、官民一体となり取組んだ賜物であろう。

技能五輪国際大会閉会式翌日には、静岡県東部6市4町と経済団体などにより「静岡県東部地域コンベンションビューロー」が立ち上がった。この精神と経験を引き継ぎ、県東部地域を国内外に認知させ、多くの人々の交流を通して、新たな地域力が醸成されることを期待する。



第39回技能五輪国際大会競技会場

神奈川
KANAGAWA

芸術のまち本格始動へ

—川崎・新百合ヶ丘—

芸術による川崎市の「新都心」づくりを目指す、小田急線新百合ヶ丘駅周辺地域(麻生区)の開発事業が、昨年末でほぼ完了した。中核施設の市アートセンターや昭和音楽大学もオープンし、「しんゆり・芸術のまち」が今年から本格始動する。

同地域には、恵まれた自然環境や住環境を求めて、以前から多くの芸術家や文化人が居住。また、カンヌ国際映画祭で2度にわたってグランプリを受賞した故今村昇平監督が創設した日本映画学校も、1986年に横浜市から移転・開学した。

こういった、同地域独自の文化的土壌を生かし、個性ゆたかな「新都心」づくりを進めるため、市は91年に「芸術のまち」構想を策定。民間の意見も取り入れながら、中核施設の誘致や建設、調和のとれた開発計画の誘導などに力を入れてきた。

昨年末に完了した万福寺土地画整理事業は、同地域で最後の大規模な宅地造成。約120人の地権者が区画整理組合を組織し、駅北側に広がる約37haの農地を開発してきた。約2,200戸の計画に対して、既に6割が入居を終えている。

事業用地の一画には、「芸術のまち」構想の核となる市アートセンターが昨年10月末にオープンした。光あふれるガラス張りのエントランスが特徴的な建物で、鉄筋コンクリート造り3階建て、延べ床面積約2,000㎡。

「芸術を創り、育て、楽しむ」センターとして、195席(最大214席)の「アルテリオ小劇場」と113席の「アルテリオ映像館」を設置。市民と芸術家が交流するコラボレーションスペース、貸し出し用の映像編集室、録音室、工房なども設けた。

アルテリオとは、イタリア語で芸術を意味する「アルテ」と、スペイン語でユリを意味する「リリオ」を合わせた造語。開館を記念



「しんゆり・芸術のまち」の中核施設として昨年10月末にオープンした川崎市アートセンター

して、今村監督が獲得したカンヌ映画祭のグランプリ「パルムドール」のトロフィーも、同センターに寄託・展示された。

もう一つの中核施設の昭和音楽大学は、駅南側に昨年4月にオープンした。同大学は69年、短期大学として厚木市で開学。その後、大学、大学院を設置して規模拡大を図ってきたが、より良い教育環境を求めて全学移転した。

新キャンパスには、オペラ公演も可能な1,300人収容の劇場、コンサートホールなども完備。同大学は関連施設の昭和音楽芸術学院を、89年から駅北側の万福寺地区に開設していたが、全学移転とともに閉校し、その機能を新キャンパスに受け継いだ。

一方、小田急線新百合ヶ丘駅の駅舎も今年2月、「芸術のまち」の玄関にふさわしくリニューアルする。さらに、JR南部線・東急東横線の武蔵小杉駅(中原区)から川崎縦貫高速鉄道(地下鉄)を開業(2018年度予定)する計画も進んでいる。

同地区では、これまでも麻生音楽祭、しんゆり映画祭など、住民手づくりの芸術活動が展開されてきた。ハード面の整備完了によって、これらの活動がさらに盛んになるとともに、市アートセンターなどから新たな「芸術の波」が生まれることも期待される。